

環境の影響を教えた頂いた症例

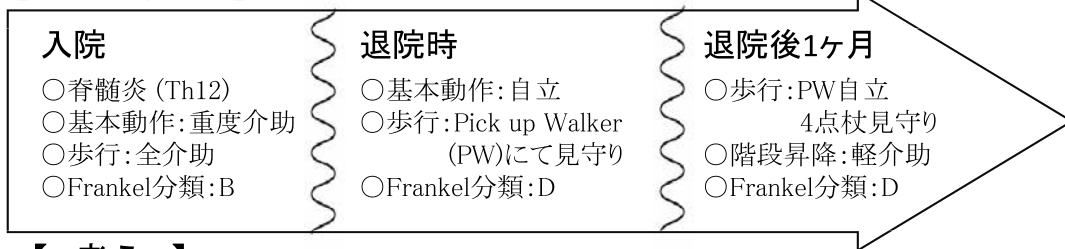
～回復期の立場から～

ENERGY
西大和リハビリテーション病院
湯田 智久

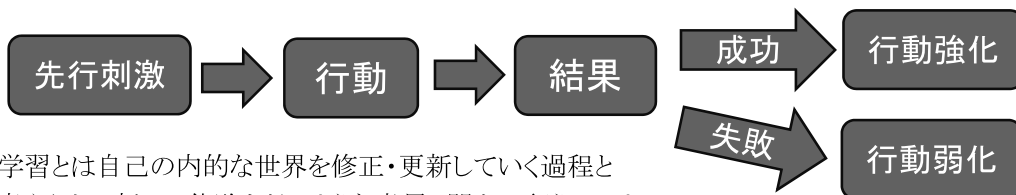
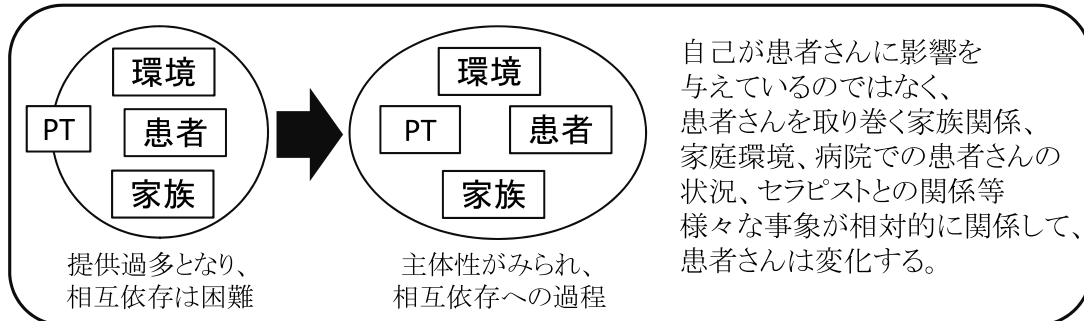
Key points

- ① 患者さんが変化できる環境を提供する
- ② 長期的に変化していくための手続きを考える

【 症例情報 】



【 考え 】



学習とは自己の内的な世界を修正・更新していく過程と考えられ、新しい体験をどのような意思、関心で行うかによって学習効果は異なる。

現在の状態を患者さんと共に確認し、今後の目標(未来)の修正・更新を共有し、それらを結びつける『過程』を患者さんと共有する。その過程を患者さんとセラピストが『楽しみ』や『やりがい』といった正の報酬に結びつける事で、機能、動作、社会参加の長期的な変化につながると思う。

【 当日の発表について 】

『不易流行』がテーマということで、私が回復期で働くセラピストの大前提と考えている点を、症例に対する取り組みを交えて発表したいと考えております。実技は行わない予定です。活発な意見交換、よろしくお願ひ致します。